

藤原京右京九条二・三坊、 瀬田遺跡の調査

―第187次

調査の概要 本調査は、奈良職業能力開発促進センター（ポリテクセンター奈良）本館建て替えにともなう発掘調査である。調査は、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構の委託を受けて実施した。

調査地は、飛鳥川左岸の、南東から北西へ下る緩やかな傾斜地にあり、藤原京右京九条二坊西北坪と三坊東北坪、西二坊大路にあたりとともに、弥生時代の遺物散布地、瀬田遺跡として遺跡地図に掲載されている。

周辺の調査では、同じポリテクセンター奈良敷地内にあたる藤原宮第54-18次調査北区（『藤原概報 18』）で、西二坊大路東側溝と思われる南北溝を、同第63-3次調査区（『藤原概報 21』）において西側溝と思われる南北溝をそれぞれ検出しているほか、調査区の北約200mでおこなった飛鳥藤原第185-7次調査において、西二坊大路の東西両側溝および八条条間路南側溝の可能性のある遺構を検出している（本書80頁）。

本調査は、2015年11月25日から重機掘削を開始した。調査面積は2,019㎡。2016年度までの継続調査であるため、調査の詳細は、次年度の紀要で報告することとし、以下、2015年度段階の知見について、中間報告する。

調査の成果 基本層序は、整備盛土、耕作土、床土、褐色砂質土（遺物包含層）、灰色砂質土、黄灰色シルト、暗灰色粘土である。調査区西南部には、旧流路に由来する灰色ないし青灰色から黒灰色の粗砂および細砂が厚く堆積する。遺構は、灰色砂質土および黄灰色シルト上面において検出した。調査区の南半、東からおよそ3分の2の範囲は、既存建物の基礎により大規模な攪乱を受けている。

今回検出した主な遺構は、西二坊大路、掘立柱建物10棟、掘立柱塀3条、溝3条、土坑4基などである。土坑には、井戸の可能性が高いものを含む。調査区西部では、藤原宮期の大型掘立柱建物を検出しており、九条三坊東北坪における計画的な建物配置が推定される。このほか、弥生時代に属すると思われる周溝墓を検出している。遺物は、弥生時代後期から終末期までの土器が目立つほか、古代の土器も一定程度含まれている。

（山本 崇・金 宇大）



図92 第187次調査区位置図 1:5000



図93 右京九条三坊東北坪の建物群（北東から）